

あいち農産物生産流通レポート

2024年5月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 加工食品の「特色のある原材料の表示」について	(食育消費流通課) 1
・ ジネンジョ用の全量基肥肥料を開発	(農業総合試験場) 3
◎ 地域トピックス	
・ 第4次みよし市食育推進計画が策定されました	(豊田加茂農林水産事務所) 4
・ 淡水魚産物加工品で業界をリードする～愛知県淡水養殖漁業協同組合の取組～	(新城設楽農林水産事務所) 5
◎ 東日本情報	
・ 多様化するニーズに対応する食品・食材展「プレミアム・フードショー2024」～国内外に向け、これからの食の価値を提案～	(東京事務所) 6
◎ 西日本情報	
・ 農林水産物のインバウンド需要拡大に向けた取組について	(食育消費流通課) 8
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	9
・ 名古屋・東京市場における青果物の5月の見通し	10
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の5月の見通し(県内市場)	22

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

加工食品の「特色のある原材料の表示」について

食育消費流通課

加工食品に表示されている「〇〇使用」等の表示は、消費者にとって関心の高い事項であるため、消費者庁は「食品表示基準Q&A」の中で、表示の留意点を「特色のある原材料の表示」として紹介しています。

なお、「特色のある原材料」とは、特色のあることを示す用語を冠する等により、一般的名称で表示される原材料に対し差別化が図られたものであり、同種の原材料に占める割合が100%でない場合に「〇〇使用」、「〇〇入り」のように「使用した旨」を表示することが、消費者に優良誤認を与えると考えられるものを指します。

1 表示の具体例

具体的には、以下の表示等が該当します。

- ① 製品表面などに「〇〇使用」、「〇〇入り」のように、特色のある原材料を強調して表示する場合
- ② 製品の名称が特色のある原材料を使用した旨を示すものである場合
- ③ 「〇〇を使用し、・・・」のように説明書きなどで特色のある原材料を使用した旨を表示する場合
- ④ 一括表示部分の原材料名として「うるち米（〇〇）、・・・」のように表示する場合

2 「使用割合」の併記が必要です

例えば、商品に「国産××使用」のように「特色のある原材料」の表示がされている場合、消費者は「国産××」の使用割合が100%であると認識すると考えられます。

このような場合において、実際には「国産××」の使用割合が10%であったとすると、消費者を誤認させることになるため、「国産××10%使用」のように使用割合を併記することが「食品表示基準」で定められています。

3 表示方法

特色のある原材料の表示に関しては、以下のいずれかの使用割合を表示します（使用割合が100%である場合には、割合の表示を省略することができます。）。

- ① 製品に占める割合
- ② 特色のある原材料と同一の種類原材料に占める割合（この場合、同一の種類原

材料に占める割合である旨を表示する必要があります。)

例えば、米としてコシヒカリと日本晴を使用している「炊き込みご飯のレトルトパウチ」において、コシヒカリを使用していることを表示する場合の表示例は、以下のとおりです。

【方法1】 強調表示部分において「米に占める割合」であることを明記

(例1) 「コシヒカリ 50%使用 (米に占める割合)」

(例2) 「この商品に使用されている米のうちコシヒカリは50%です」

【方法2】 一括表示部分の原材料名欄において割合表示

(例) 「原材料名 うるち米 (コシヒカリ 50%)、…」

注) 特色のある原材料の割合の表示は、消費者が誤認しないという観点から強調した箇所の全てに表示する必要があります。

4 留意事項

特色のある原材料の表示では、以下の事例に御注意ください。

Q. 黒糖を使用して製造した製品に、「沖縄県産さとうきび使用」のように表示することはできますか。

A. 製造者が黒糖を購入して製品を製造しており、自らさとうきびを使用していない場合、「沖縄県産さとうきび使用」等と強調して表示することは適切ではありません。

このような場合、「使用している黒糖は、全て沖縄県産さとうきびから作られています。」など、事実在即して表示することは可能です。

1 背景と目的

ジネンジョはヤマノイモ科の作物で、とろろ汁や山かけとして生食されており、本県では中山間地域を中心に栽培されています。ジネンジョの施肥は、種芋定植時の基肥と生育後半の追肥が行われてきましたが、生産者から追肥が不要で省力的かつ安価な全量基肥肥料の開発が要望されていました。山間農業研究所では、平坦地から中山間地域に適応する低コストなジネンジョ用全量基肥肥料の開発に愛知県経済農業協同組合連合会と共同して取り組みました。



ジネンジョ
(芋：左、とろろ：右)

2 研究内容

ジネンジョの養分吸収特性が不明でしたが、試作肥料を開発するにあたり、植物体や土壌中に含まれる窒素(N)、リン(P)、加里

表1 試験区の構成

年度	ほ場	標高 (m)	合計施肥量(N-P-K) (g/株)		慣行区 の追肥
			試作肥料区	慣行区	
2020	研究所内	505	6.8-1.6-9.3	6.8-5.3-6.3	なし
2021	研究所内	505	6.8-1.6-9.3	6.8-5.3-6.3	なし
2022	研究所内	505	6.8-1.6-9.3	6.8-5.3-6.3	なし
2022	現地・平坦地	50	6.8-1.6-9.3	9.5-3.0-3.0	あり
2022	現地・中山間地	510	6.8-1.6-9.3	18.0-5.8-7.9	なし

(K)の量を経時的に調査することで解明し、2020年度にジネンジョの養分吸収特性に応じた全量基肥肥料を試作しました。2020年から2022年まで試作肥料のジネンジョへの適合性を確認するため、研究所内で試作肥料区、慣行肥料を用いた慣行区を設置し、新生芋長、新生芋重を調査しました。また、2022年度には標高の異なる地域の農家のほ場で、試作肥料の現地適応性を確認しました(表1)。

3 試験結果

試作肥料区の新生芋長、新生芋重は慣行区と同等で(表2)、試作肥料がジネンジョ栽培に適することが確認できました。

現地適応性試験では、平坦地及び中山間地ともに試作肥料は慣行肥料の生育・収量と同等の評価となり、

表2 新生芋重と新生芋長(山間農業研究所 2020~2022年度)

年度	標高 (m)	収穫日	新生芋重(g/本)		新生芋長(cm/本)	
			試作肥料区	慣行区	試作肥料区	慣行区
2020	505	11/26	521.4	511.2	131.6	130.6
2021	505	11/16	456.4	428.0	130.7	130.3
2022	505	12/5	403.1	385.9	109.4	112.9

試作肥料の平坦地から中山間地への適応性が確認できました。

開発した肥料は、2023年1月に商品名「自然薯ワンタッチ」として販売を開始しました。産地で使用が多い被覆燐硝安加里よりも価格が3割程度安くなり、現在、県内面積の5割に普及しています。

第4次みよし市食育推進計画が策定されました

豊田加茂農林水産事務所

みよし市では2009年に食育推進計画を策定し、食育を推進する取組を行ってきました。このたび2024年3月に第4次計画（2024～2028年度）が策定されました。

1 第4次計画の策定経過

計画策定に当たって、学識経験者を含めた関係者で構成されるみよし市食育推進会議での検討を2023年度に4回行いました。第3次計画の目標達成度について検証を行うとともに、市民に対し行った食に関するアンケート調査結果から見えた課題をもとに、近年におけるライフスタイルの多様化や新型コロナウイルス感染症の影響による社会環境の変化等も考慮に入れ、第4次計画策定に向けての検討を行いました。



第4次みよし市食育推進計画の表紙

2 内容のポイント

基本理念として「人づくり、健康づくり、環境づくり」の三本柱の実現を目指すとし、市民一人一人が自ら食を見つめ直し、健康的な食習慣を培うと同時に、食を通して自然の恩恵と食べ物に対する感謝の気持ちを養い、地域の行事や継承されてきた食文化を理解することとされております。

また、健康的で心豊かに生きられる人を育て、安全で無駄のないサステナブルな食の環境づくりや地産地消を進めるとともに、これらを実践するための行動指針を定め、市民が生涯を通してより良い食生活を築けるようにすることとされております。

3 親しみやすい計画にするために

食育推進計画はインターネット上でも確認することができます。

また、地元の農産物を使用した給食の紹介や、食に関するコラム、可愛いイラストを使った「みよし市農畜産物表示シール」の紹介など、市民が計画を意識して実践できるようになっています。

淡水魚産物加工品で業界をリードする

～愛知県淡水養殖漁業協同組合の取組～

新城設楽農林水産事務所

北設楽郡設楽町に拠点を持つ愛知県淡水養殖漁業協同組合（以下、愛知県淡水）は、あゆ・あまご・にじます等の「甘くて味が濃く、香りが高い甘露煮」を製造・販売しています。2023年度に生産量及び品質向上のために、新しい「焼き機」を導入し、生産工程を改善しました。

1 愛知県淡水の取組

愛知県淡水は1971年に設立され、以来約50年間、ます類・あまご、いわな等の活魚販売や種卵の販売、各種加工品の製造販売等、淡水魚に関する様々な事業を展開し、現在では業界のリーダー的存在となっています。

にじます・あまご・いわな等の「川魚の甘露煮」「川魚の一夜干し」「昆布巻き」「燻製」の加工品を製造して、全国に販売しており、県内では道の駅・農産物販売所等で購入することができます。

また、愛知県水産試験場にて作出された「絹姫サーモン」を1999年からブランド魚として生産・販売しています。



(参考)

- ・日本釣振興会愛知県支部 - 愛知県お魚図鑑 (jsfaichi.org)
- ・お問い合わせ | 愛知県淡水養殖漁業協同組合 (tansui.net)
- ・愛知県淡水養殖漁業協同組合 | 食べる・買う | 【公式】愛知県設楽町の観光サイト「設楽町観光ナビ」 (kankoshitara.jp/eat/detail/99/)

2 品質向上等の取組

主力商品である甘露煮は、焼き工程が品質の良否を左右します。焼き工程に影響を与える要因としては、魚種、②魚の大きさ、③時期・季節等がありますが、これらをオペレーターの経験と勘で管理して焼いていましたが、歩留まりが悪い等の課題がありました。

そこで2023年度に愛知県の補助事業を活用して「遠赤外線上下式自動焼き機」を導入しました。「焼き時間」「燃焼強度」の調整等が容易にできるようになり、焼き加減が均一化され生産工程を改善することができました。

その結果、「尾ひれ・皮の破損」等の減少といった品質面の改善ができたことに加え、「作業時間の縮減」「燃焼ガス消費量の削減」等の生産性の向上も図ることができ、生産量を20%向上することができました。



焼き工程終了の鮭
(これから甘露煮工程へ)

多様化するニーズに対応する食品・食材展「プレミアム・フードショー2024」 ～ 国内外に向け、これからの食の価値を提案 ～

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

「プレミアム・フードショー2024」（主催：プレミアム・フードショー実行委員会）が2024年4月10日（水）～12日（金）の3日間、東京ビッグサイト（東京都江東区有明3丁目）で開催されました。

1 国内市場および海外輸出の活性化、新たな需要の掘り起しに貢献

本イベントは、ベジタリアン（ヴィーガン・プラントベース）、ハラール、グルテンフリー、オーガニックなど多様性をテーマにグローバルな視点で食業界の潮流を発信する専門展示会です。生活習慣、文化、宗教、健康、安全・安心など、あらゆる食の背景を網羅した商材・サービスのマッチングによって、国内市場および海外輸出の活性化や新たな需要の掘り起しを図ることを目的として開催されました。

会場では、計87の企業・団体がブースを設けたほか、ハラールフードの展示コーナーが設置され、入場者は3日間で計55,214名となりました（主催者発表）。また、取組意欲の高い約30社のバイヤー（海外の小売・飲食店・輸入業者、国内の宿泊施設・飲食店等）が参加した個別商談会も連日開催されました。



会場の様子

2 会場内は4つのカテゴリーで構成

次の4つのカテゴリーが設けられ、いずれの展示ブースでも来場者が食のトレンドを熱心に情報収集する姿がみられ、商談も盛んに行われていました。

	カテゴリー名	内容
①	ベジフード EXPO	地球環境や健康志向など食への意識の高まりと共に注目されている植物由来の原材料を使用しているヴィーガン・プラントベースの食品・食材、関連製品・サービスを展示。
②	ハラールマーケットフェア	渡航再開後のムスリムインバウンド、イスラム圏を中心とする海外輸出の拡大を目的として、ハラール認証商品、ムスリム向け提案商品を展示。
③	グルテンフリーコーナー	EU、アメリカ、オーストラリアなどを中心に急成長を続け、日本国内でも乳幼児・児童向けの食事を中心に取組が拡大しているグルテンフリー対応商品を展示。
④	オーガニックフード EXPO	オーガニックフードに特化した各地の生産者の商品やブランドを展示。

愛知県からは、④のカテゴリーで七福醸造(株)【有機白だし】、日東醸造(株)【足助仕込三河しろたまり】、(株)まるや八丁味噌【有機八丁味噌】の出展がありました。



八丁味噌(左)、白だしと白醤油(右)



こんにゃく由来のマグロ代替品(左)・ネギトロ代替品(中央)、牛肉しぐれ煮風大豆ミート(右)

3 専門セミナーの紹介

業界に向けた情報発信と需要喚起を図るため、各ジャンルの専門セミナーが連日開催されました。今後、畜産や水産業に影響を及ぼす可能性のあるプラントベースフードのセミナーの内容をご紹介します。プラントベースフードとは、動物性原材料ではなく、植物由来の原材料を使用している食品のことです。大豆ミート（肉の代替品）やアーモンドミルク（牛乳の代替品）等が、プラントベースフードと呼ばれる食品の一例です。

○演題

「プラントベースフード市場と可能性」

一般社団法人 Plant Based Lifestyle Lab コミュニケーション委員長 齋藤 貴生氏
 技術・標準化委員長 村田 靖雄氏
 事務局 佐藤 慎哉氏

○概要

- ・民間企業約 50 社が加入する一般社団法人 Plant Based Lifestyle Lab が 2021 年 10 月 1 日に設立され、プラントベースフード（以下「PBF」）の普及のために、官学と連携しながら、PBF が当たり前のライフスタイルを根付かせる活動を行っている。
- ・PBF には規格がないため、フードテック官民協議会^{※1}の PBF 普及推進ワーキングチームでは規格の検討を進めている。
- ・PBF が普及しない要因としては、「栄養が少ない」、「美味しくない」、「添加物が多い」、「価格が高い」といった意見がある。
- ・アメリカでは PBF の Soy Free（大豆不使用）^{※2}が進んでいるが、大豆をたんぱく源として積極的に取り入れている日本ならではの発展のさせ方があるのではないかと。

※1 2020 年 10 月設立。事務局は農林水産省。協議会の目的に賛同する個人で構成され、食品企業やスタートアップ企業、研究機関、関係省庁等を中心に約 1,300 人が参加。

※2 大豆アレルギー、遺伝子組み換えへの懸念、欧米では家畜飼料のイメージが強い等が要因として挙げられる。

PBF の普及は SDGs への貢献（健康と福祉、持続可能な食料生産と食品安全保証、温室効果ガスの削減と気候変動対策）につながると考えられ、普及には様々な工夫（生産体制の整備や消費者の意識改革等）が必要ですが、代替品ではなく、新しい価値や消費者ニーズに合わせた商品を提供していくことが必要と考えられます。

農林水産物のインバウンド需要拡大に向けた取組について

食育消費流通課

新型コロナウイルス感染症に伴う渡航制限が緩和されたことから、2023年の訪日外国人（以下、インバウンド）数は2,500万人を上回り、コロナ禍前の8割程度まで回復してきました。

本県では、農業観光ルートの創出など、ポストコロナを見据えた県産農林水産物のインバウンド需要拡大に向けた取組を進めており、これまでに以下の取組を行いました。

1 農業観光ルートについて

愛知県に訪れた外国人の方が、県産農林水産物や地域の魅力を感じることができる「農業観光ルート」の創出を目指し、インバウンド受入れに積極的に取り組む事業者で構成される農業観光ルート創出プロジェクトチームを結成し、2022年度に11種類の「農業観光ルート」が完成しました（図1）。

ルートの詳細については、県Webページで紹介しています。
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shokuiku/agri-root.html>

※地区別ルート数：尾張3、知多1、西三河2、東三河5



図1 ルートの一例
（岡崎市・豊田市）

2 ワークショップの開催

2023年度は、インバウンドにとってさらに魅力ある農業観光を実現するため、地域事業者及び地域資源のマッチング支援として、ワークショップを県内各地で全5回開催しました（図2）。

農林漁業者、宿泊業者、観光協会、市町村（農業部署及び観光部署）等が参加し、多様な分野の事業者がアイデアを出し合い、地域資源の魅力の深掘りや連携の工夫について検討しました。

ワークショップ終了後には、名刺交換や具体的なマッチング企画の検討など、参加者同士の交流が活発に行われました。



図2 ワークショップの様子

3 成果報告会の開催

全5回のワークショップで話し合われた内容について、2024年2月14日に成果報告会を開催しました。

成果報告会には17人が参加し、ワークショップの地域ごとの特徴的なポイントや共通の課題についての報告、今後のインバウンド対応に向けたアドバイス等を参加者同士で行い、さらなる農林水産物のインバウンド需要拡大となるよう、地域間で情報共有を図りました（図3）。



図3 ワークショップ・
成果報告会のチラシ

愛知産青果物の動向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下
 わずか : ±2%台以内
 や や : ±3～5%台
 かなり : ±6～15%台
 大 幅 : ±16%以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：みつば）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	愛知産	前年主要産地 (上位3産地)
2023年実績	467	417 (89%)	704	715	愛知 (89%) 静岡 (8%) 福岡 (2%)
2024年見通し	470	—	700	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
県内の海部及び名古屋地域からの入荷が中心となる。産地が数量を調整して生産しているため、入荷量及び価格は前年並の見込み。 4、5月の需要の低い時期から産地では生産の一部を他品目へ切り替えており、荷動きは8月まで悪い見込み。 物流の効率化のため名古屋を經由して京阪へ出荷する県外からの荷は増える。 【見通し】 入荷量：前年並。(0.6%) 価 格：前年並。(△0.6%)			夏場の高温により、変色や腐敗などが発生しやすい時期となる。品質管理に引き続き留意願いたい。		

○ 東京都中央卸売市場（品目：ペコロス）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	愛知産	前年主要産地 (上位3産地)
2023年実績	103	16 (15%)	923	1,402	北海道 (81%) 愛知 (15%) ニュージーランド (2%)
2024年見通し	96	—	920	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
北海道のたまねぎは、作付面積は前年並であったが、高温障害等の影響で出荷量は平年を大きく下回っている。 本県産も作付面積は前年並であるが、3～4月の天候不順のため出荷量がまとまるのは例年よりも遅れる見込み。愛知が主力となる5～8月は入荷量の少ない時期であるため、堅調な相場推移が見込まれる。 【見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(△6.8%) 価 格：前年並。(△0.3%)			ペコロスの需要は多くが業務向けであり、北海道からの入荷がなくなる5～8月の愛知産に対する期待は大きく、品質の評価は非常に高い。 愛知は夏場を担うほぼ唯一の国内産地であり、品質を維持して安定した出荷をしてほしい。		

名古屋・東京市場における青果物の5月の見通し

名古屋市中央卸売市場

4月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)		
			上旬	中旬	下旬			
野菜計	2019年	35,247	215	207	218	愛知	28%	
	2020年	33,516	215	209	214	茨城	9%	
	2021年	34,683	230	246	217	長野	8%	
	2022年	35,320	232	226	225	北海道	8%	
	2023年	32,634	259	260	255	徳島	7%	
	5ヵ年平均	34,280	230	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	2024年見通し	31,500	266	—	—			
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
だいこん	2019年	1,765	87	72	103	94	愛知	62%
	2020年	1,479	108	112	91	124	千葉	25%
	2021年	1,770	83	86	81	87	青森	6%
	2022年	1,562	118	96	135	124	鹿児島	5%
	2023年	1,730	95	106	98	84		
	5ヵ年平均	1,661	97	94	101	101	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2024年見通し	1,600	98	100	100	95		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								
にんじん	2019年	2,409	111	129	112	101	徳島	79%
	2020年	2,450	133	137	136	127	岐阜	16%
	2021年	2,592	128	160	126	107	兵庫	3%
	2022年	2,284	129	136	130	125	中国	1%
	2023年	2,296	144	184	146	114	熊本	1%
	5ヵ年平均	2,406	129	149	130	115	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	2024年見通し	2,100	150	200	150	120		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し								

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

4月30日現在

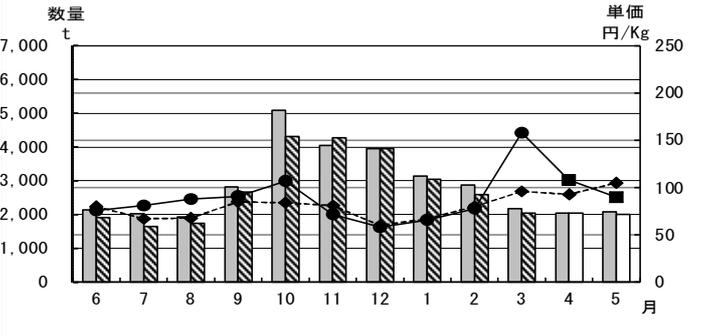
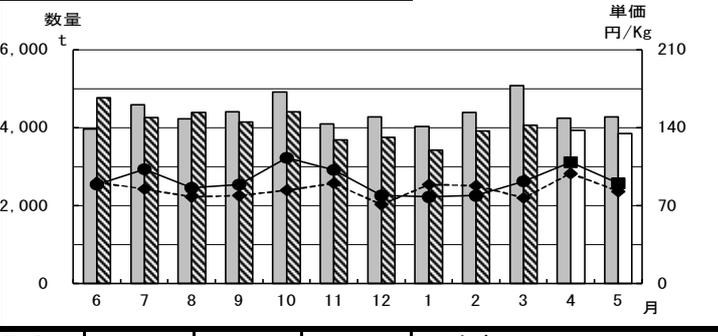
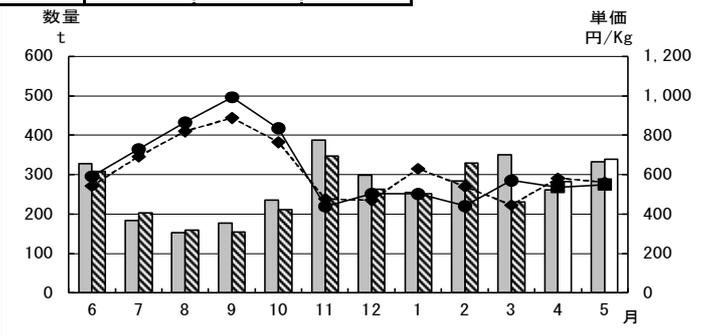
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2019年	136,302	223	217	229	224	千葉 18%
	2020年	127,259	246	260	227	250	茨城 17%
	2021年	122,610	251	253	243	256	佐賀 6%
	2022年	119,593	273	272	271	275	群馬 5%
	2023年	124,090	259	276	255	247	愛知 5%
	5ヵ年平均	125,971	250	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	123,000	260	—	—	—	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
だいこん	2019年	9,253	80	64	102	78	千葉 77%
	2020年	7,872	106	111	84	122	茨城 10%
	2021年	7,895	82	89	72	83	青森 9%
	2022年	7,630	116	104	128	115	神奈川 2%
	2023年	8,233	91	109	92	73	福岡 1%
	5ヵ年平均	8,177	94	94	96	93	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	8,200	90	95	90	85	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
にんじん	2019年	7,965	124	132	119	123	徳島 61%
	2020年	7,323	143	145	141	143	千葉 26%
	2021年	7,697	143	171	139	124	茨城 4%
	2022年	7,738	135	140	135	130	長崎 2%
	2023年	7,899	162	196	157	132	埼玉 2%
	5ヵ年平均	7,724	141	157	138	130	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	7,600	175	165	170	190	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						

名古屋市中央卸売市場

4月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうれんそう	2019年	2,079	66	67	64	69	茨城 60%
	2020年	2,040	126	177	95	109	長野 18%
	2021年	2,077	61	59	55	68	愛知 15%
	2022年	1,848	87	70	92	97	三重 5%
	2023年	2,091	105	155	94	73	兵庫 2%
	5カ年平均	2,027	89	106	80	83	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	2,000	90	100	90	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 茨城、愛知は5月下旬から入荷減の予想。 長野は5月下旬からスタートするが、3月の 低温でやや遅れ気味。加工業務用は順調。							
【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△4.4%) 価格：高値だった前年をかなり下回る。 (14.3%)							
キヤベツ	2019年	3,089	107	90	131	103	愛知 78%
	2020年	3,506	127	149	127	108	茨城 18%
	2021年	3,994	67	68	64	75	三重 1%
	2022年	3,810	105	122	103	97	宮崎 1%
	2023年	4,286	83	100	76	78	熊本 1%
	5カ年平均	3,737	96	105	98	91	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	3,860	90	90	90	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地概況】 愛知、茨城の生育は良好。5月中旬以降増 加見込み。							
【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(△9.9%) 価格：前年をかなり上回る。(8.4%)							
ほうれん	2019年	316	453	379	511	468	岐阜 70%
	2020年	351	513	547	483	511	茨城 21%
	2021年	401	467	489	446	472	愛知 5%
	2022年	287	575	558	589	574	静岡 2%
	2023年	333	562	601	564	527	長野 2%
	5カ年平均	338	511	514	513	508	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	340	550	600	550	500	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地概況】 岐阜は生産者の高齢化による離農等により 面積減となっているが、高温の影響で前進気 味の出荷となっており、数量は平年並とな る。茨城は安定した出荷の見込み。							
【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに上回る。(2.1%) 価格：前年をわずかに下回る。(△2.1%)							

東京都中央卸売市場

4月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうろく	2019年	6,570	48	51	47	46	茨城 92%
	2020年	6,787	105	168	71	86	長野 6%
	2021年	6,583	47	49	40	51	群馬 2%
	2022年	5,924	74	63	86	73	
	2023年	6,316	85	115	75	60	
	5ヵ年平均	6,436	72	90	63	63	
	2024年見通し	6,300	85	85	85	85	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>数量(t) 単価(円/Kg)</p>					
【産地状況】 入荷先の主体は茨城となる。気温上昇とともに品質が良くなってきて数量もまとまり、不足感のない出回りとなる。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.3%) 価格：前年並。(0.0%)							
キャベツ	2019年	17,175	96	74	121	96	千葉 44%
	2020年	16,771	129	156	122	112	愛知 23%
	2021年	18,127	64	72	60	60	神奈川 17%
	2022年	17,842	99	101	99	96	茨城 13%
	2023年	17,079	84	103	77	75	東京 1%
	5ヵ年平均	17,399	94	101	95	87	
	2024年見通し	17,100	90	95	80	95	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>数量(t) 単価(円/Kg)</p>					
【産地状況】 入荷先の主体は千葉、愛知等となる。これまでの前進傾向が3月の気温低下で前年並となり、入荷量は連休明けまで少ない。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.1%) 価格：前年をかなり上回る。(7.1%)							
ほうろ	2019年	1,481	370	340	399	370	茨城 39%
	2020年	1,526	427	462	379	440	群馬 39%
	2021年	1,601	372	385	347	383	栃木 7%
	2022年	1,310	483	457	498	490	埼玉 6%
	2023年	1,544	441	475	449	398	岩手 3%
	5ヵ年平均	1,492	417	423	411	414	
	2024年見通し	1,500	430	420	420	450	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>数量(t) 単価(円/Kg)</p>					
【産地状況】 入荷先の主体は茨城、群馬となる。夏秋産地の出荷が本格化する。各産地とも生育順調で、入荷量は前年並となる見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(△2.8%) 価格：前年をわずかに下回る。(△2.5%)							

名古屋市中央卸売市場

4月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2019年	604	416	439	402	417	大分 32%
	2020年	606	463	475	433	484	愛知 13%
	2021年	557	487	500	486	478	茨城 13%
	2022年	609	482	452	477	515	中国 6%
	2023年	631	464	466	465	459	静岡 6%
	5カ年平均	601	462	466	452	470	
	2024年見通し	600	460	460	460	460	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
ねぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地概況】 愛知は前進出荷となり、増量傾向。天候が良ければ、各産地順調な出荷が予想される。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△4.9%) 価格：前年並。(△0.9%)</p>						
しそ	2019年	1,689	188	193	201	174	長野 78%
	2020年	1,796	172	218	153	151	山梨 8%
	2021年	1,846	165	152	158	189	兵庫 6%
	2022年	1,933	183	173	200	180	茨城 5%
	2023年	2,010	177	178	174	177	熊本 2%
	5カ年平均	1,855	177	182	177	174	
	2024年見通し	1,900	180	190	180	170	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
しそ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地概況】 5月は順調な入荷の見込み。価格は5月上旬は堅調だが、5月中旬から長野の出荷が始まり、荷が増え相場の下落も予想される。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△5.5%) 価格：前年並。(1.7%)</p>						
きゅうり	2019年	2,108	215	205	223	216	愛知 43%
	2020年	2,162	238	212	214	285	群馬 21%
	2021年	1,852	255	208	219	378	宮崎 12%
	2022年	1,792	274	286	267	270	高知 9%
	2023年	1,775	242	265	245	216	長野 8%
	5カ年平均	1,938	244	233	232	272	
	2024年見通し	1,750	260	280	260	240	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
きゅうり	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地概況】 各産地作柄は良好。冬春ものの樹の生育が悪く、下級品が多くなる予想。群馬、長野の春きゅうりは平年並の出荷見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(△1.4%) 価格：前年をかなり上回る。(7.4%)</p>						

東京都中央卸売市場

4月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2019年	4, 234	406	431	375	412	茨城 49%
	2020年	4, 115	448	430	424	481	千葉 21%
	2021年	4, 244	451	499	438	424	埼玉 8%
	2022年	4, 105	449	370	410	438	栃木 6%
	2023年	4, 052	469	489	471	447	福岡 3%
	5ヵ年平均	4, 150	444	444	424	440	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	4, 100	420	440	420	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量(t) 単価(円/Kg)				
【産地状況】 入荷先の主体は茨城、千葉となる。各産地とも生育順調で、太物中心の入荷が見込まれる。連休明けは夏ねぎが増量する。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(1.2%) 価格：前年をかなり下回る。(△10.4%)							
し	2019年	7, 602	160	163	175	147	長野 44%
	2020年	6, 679	156	200	131	141	群馬 27%
	2021年	6, 112	166	153	153	192	茨城 20%
	2022年	6, 604	167	158	183	162	山梨 3%
	2023年	7, 182	157	168	148	155	栃木 1%
	5ヵ年平均	6, 836	161	169	158	158	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	7, 100	140	160	120	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量(t) 単価(円/Kg)				
【産地状況】 入荷先の主体は長野、群馬、茨城となる。生育ペースは平年並で、入荷量は連休後にピークとなる。茨城産は下旬に終了。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(△1.1%) 価格：前年をかなり下回る。(△10.8%)							
きゅうり	2019年	8, 460	215	209	231	204	埼玉 27%
	2020年	8, 229	246	312	212	204	群馬 26%
	2021年	7, 633	257	213	218	353	宮崎 12%
	2022年	7, 591	265	282	252	261	茨城 9%
	2023年	8, 019	237	257	235	217	千葉 9%
	5ヵ年平均	7, 986	243	255	229	246	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	8, 000	270	250	280	280	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量(t) 単価(円/Kg)				
【産地状況】 入荷先の主体は埼玉、群馬、宮崎となる。入荷量は連休明けに増え、天候不順がなければ平年並の出回りとなる。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.2%) 価格：前年をかなり上回る。(13.9%)							

名古屋市中央卸売市場

4月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
なす	2019年	1,165	315	332	317	306	熊本 43%
	2020年	1,149	331	361	328	312	愛知 33%
	2021年	1,035	347	351	337	355	宮崎 21%
	2022年	856	347	338	348	355	高知 3%
	2023年	949	367	373	378	352	
	5カ年平均	1,031	340	351	340	334	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	1,000	340	350	340	330	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地概況】 各産地ともに4月の出荷量が少なかったため、5月に出荷量の増量を見込んでいる。 【概況見通し】 入荷量：前年よりやや上回る。(5.4%) 価格：前年をかなり下回る。(△7.4%)						
トマト	2019年	1,980	210	219	213	204	熊本 49%
	2020年	1,884	228	276	212	205	愛知 22%
	2021年	2,013	250	275	255	230	三重 17%
	2022年	1,662	262	249	272	269	岐阜 12%
	2023年	1,683	286	301	295	269	
	5カ年平均	1,844	246	263	248	233	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	1,700	270	290	270	280	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地概況】 GW明けに出荷ピークをむかえ、5月下旬以降は減少見込み。気温が高い予報のため、引き合いは順調な見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(1.0%) 価格：高値だった前年をやや下回る。(△5.6%)						
ニンジン	2019年	832	439	461	437	418	熊本 70%
	2020年	842	423	500	407	379	愛知 24%
	2021年	805	507	523	504	495	和歌山 4%
	2022年	838	462	473	440	475	宮崎 2%
	2023年	803	493	522	515	445	
	5カ年平均	824	464	495	460	442	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	800	500	550	500	450	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地概況】 各産地ピークをむかえ、入荷順調。中旬から小玉傾向、下旬から品質低下が見込まれ、相場は平年並と予想される。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.4%) 価格：前年並。(1.4%)						

東京都中央卸売市場

4月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な	2019年	4, 8 1 3	3 4 1	347	340	336	高知 45%
	2020年	4, 6 0 6	3 7 4	406	364	357	福岡 16%
	2021年	4, 1 7 9	3 9 3	398	366	415	群馬 14%
	2022年	4, 0 3 8	3 9 8	409	416	396	熊本 7%
	2023年	4, 1 4 8	3 7 7	399	383	352	宮崎 4%
	5ヵ年平均	4, 3 5 7	3 7 5	392	374	371	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	4, 1 0 0	3 9 0	370	420	380	
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t) 単価(円/Kg)				
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は高知、福岡、群馬となる。出荷の増減は天候次第だが、4月に比べて入荷量は増えると見込まれる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(△1.2%) 価格：前年をやや上回る。(3.4%)</p>						
ト	2019年	1 0, 0 1 9	2 4 6	247	250	242	熊本 29%
	2020年	9, 1 5 9	2 6 8	336	234	247	栃木 24%
	2021年	9, 0 9 7	2 8 3	311	288	255	愛知 12%
	2022年	8, 2 2 2	3 1 6	307	320	318	茨城 7%
	2023年	7, 8 4 0	3 2 8	351	341	296	千葉 7%
	5ヵ年平均	8, 8 6 7	2 8 6	308	284	269	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	7, 9 0 0	3 1 0	310	310	310	
マ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t) 単価(円/Kg)				
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は熊本、栃木、愛知となる。生育に大きな問題はなく、入荷量は上中旬に増量し、安定した出回りとなる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.8%) 価格：前年をやや下回る。(△5.5%)</p>						
ミ	2019年	2, 8 5 4	4 0 7	439	393	392	熊本 46%
	2020年	2, 7 6 9	3 9 7	488	375	344	愛知 18%
	2021年	2, 7 3 3	4 7 4	485	469	470	千葉 9%
	2022年	2, 5 6 5	4 8 1	482	459	502	宮崎 8%
	2023年	2, 5 8 4	5 1 8	545	533	476	静岡 7%
	5ヵ年平均	2, 7 0 1	4 5 4	487	444	435	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	2, 6 0 0	4 8 0	490	480	470	
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		数量(t) 単価(円/Kg)				
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は熊本、愛知となる。生育は概ね順調。5月は入荷量がピークとなり、潤沢な出回りが見込まれる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(0.6%) 価格：前年をかなり下回る。(△7.3%)</p>						

名古屋市中央卸売市場

4月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2019年	733	244	271	225	284	鹿児島 40%
	2020年	804	428	566	385	345	宮崎 23%
	2021年	781	342	392	342	327	茨城 23%
	2022年	652	419	423	415	449	高知 14%
	2023年	672	433	505	452	397	
	5カ年平均	728	372	432	361	357	
	2024年見通し	660	446	500	450	390	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地概況】 冬春産地は生育が良くないが、GWにピークをむかえる見込み。春作の茨城は生育順調で、安定的な入荷が見込まれる。							
【概況見通し】 入荷量：前年並。(△1.8%) 価格：高値だった前年をやや上回る。(3.0%)							
ばれいしよ	2019年	3,274	133	145	132	122	長崎 46%
	2020年	3,003	223	189	220	257	鹿児島 43%
	2021年	3,052	282	292	290	264	静岡 5%
	2022年	3,255	164	200	153	144	北海道 4%
	2023年	3,128	163	172	155	157	熊本 3%
	5カ年平均	3,142	192	199	188	187	
	2024年見通し	3,200	160	170	160	150	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地概況】 長崎、鹿児島は生育順調。集荷のピークは鹿児島はGW前後、長崎はGW以降の見込み。							
【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに上回る。(2.3%) 価格：前年並。(△1.8%)							
たまねぎ	2019年	4,920	78	87	77	74	愛知 48%
	2020年	5,792	53	59	47	55	北海道 43%
	2021年	5,579	80	76	80	85	兵庫 5%
	2022年	4,479	221	244	217	211	熊本 2%
	2023年	5,073	89	96	82	96	ニュージーランド 1%
	5カ年平均	5,168	100	107	96	100	
	2024年見通し	5,000	100	120	100	100	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地概況】 愛知は前年並の生育状況でGW明けピークをむかえ、2L、L中心の見込み。北海道はほぼ終了し、契約販売のみの入荷となる。							
【概況見通し】 入荷量：前年並。(△1.4%) 価格：前年をかなり上回る。(12.4%)							

東京都中央卸売市場

4月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2019年	2,802	318	332	290	332	茨城 62%
	2020年	2,802	486	607	424	433	宮崎 21%
	2021年	2,646	396	432	382	375	高知 11%
	2022年	2,485	475	472	443	509	鹿児島 5%
	2023年	2,996	464	522	463	400	
	5ヵ年平均	2,746	428	474	401	408	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	2,900	480	490	460	490	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量(t) 単価(円/Kg)			
	【産地状況】 入荷先の主体は茨城、宮崎、高知となる。一部の産地は曇雨天の影響で出荷は鈍いが、入荷量は連休後にピークとなる。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(△3.2%) 価格：前年をやや上回る。(3.4%)						
白菜	2019年	9,658	132	143	132	122	長崎 46%
	2020年	8,375	232	187	228	272	鹿児島 38%
	2021年	8,754	287	300	292	270	静岡 5%
	2022年	8,920	164	212	158	142	北海道 5%
	2023年	9,631	158	159	160	157	熊本 5%
	5ヵ年平均	9,068	192	198	192	190	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	9,600	160	190	150	140	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量(t) 単価(円/Kg)			
	【産地状況】 入荷先の主体は長崎、鹿児島となる。長崎は4月に天候不順で出荷が進まなかったが、5月は大きく増量する見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(△0.3%) 価格：前年並。(1.3%)						
タマネギ	2019年	14,481	87	98	85	80	佐賀 55%
	2020年	13,348	47	42	40	60	北海道 23%
	2021年	9,973	101	94	103	107	兵庫 11%
	2022年	9,922	257	250	246	272	千葉 3%
	2023年	12,151	100	102	100	98	
	5ヵ年平均	11,975	111	111	108	116	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2024年見通し	11,000	105	110	110	95	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量(t) 単価(円/Kg)			
	【産地状況】 入荷先の主体は佐賀、北海道、兵庫となる。北海道は昨年よりも減少が早い。佐賀、兵庫は4月に雨が多く大玉傾向。 【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(△9.5%) 価格：前年をやや上回る。(5.0%)						

名古屋市中央卸売市場

4月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2019年	7,100	417	442	429	405	フィリピン 27%
	2020年	6,419	426	450	427	424	熊本 26%
	2021年	6,126	441	462	436	443	青森 12%
	2022年	6,531	428	433	450	441	愛知 11%
	2023年	7,234	447	468	447	461	ニュージーランド 7%
	5ヵ年平均	6,682	432	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	6,700	460	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地概況】 すいか、りんご、メロン、いちごを中心に入荷する。りんごは有袋ふじ産地の入荷が少なく、荷動き悪い予想。いちごは九州産の終了が早い見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(△7.4%) 価格：前年をわずかに上回る。(2.9%)</p>						
その他メロン (アールスメロン以外)	2019年	829	446	537	447	396	熊本 80%
	2020年	835	429	488	445	388	愛知 12%
	2021年	725	484	531	511	429	茨城 5%
	2022年	742	526	579	526	496	鹿児島 2%
	2023年	720	530	579	531	494	長崎 1%
	5ヵ年平均	770	481	541	490	438	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	700	530	570	530	500		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地概況】 熊本のアンデス、クインシー、タカミ中心。愛知はイエローキングの入荷となる。茨城は熊本の入荷状況で増減する。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(△2.8%) 価格：前年並。(0%)</p>						
すいか	2019年	1,518	265	293	269	246	熊本 79%
	2020年	1,431	264	241	270	266	愛知 18%
	2021年	1,083	271	304	306	258	和歌山 2%
	2022年	1,370	319	352	331	288	沖縄 1%
	2023年	1,297	318	347	327	288	
	5ヵ年平均	1,340	287	306	299	269	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2024年見通し	1,260	320	340	320	280		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地概況】 熊本を中心に愛知などからも入荷する。愛知は作付が減少する見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(△2.9%) 価格：前年並。(0.6%)</p>						

東京都中央卸売市場

4月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2019年	26,366	438	468	444	410	熊本 25%
	2020年	23,708	474	491	476	457	青森 16%
	2021年	25,554	454	479	463	425	茨城 14%
	2022年	22,475	513	549	508	489	栃木 7%
	2023年	22,928	532	558	527	510	フィリピン 7%
	5カ年平均	24,206	480	—	—	—	
	2024年見通し	22,500	535	—	—	—	
実計	産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し						前年及び本年の入荷量・価格の動き
	<p>【産地状況】</p> <p>熊本、茨城などから、すいか、メロンを中心に入荷する。ハウスぶどうの入荷が各産地で始まり、平年並の出荷を見込む。</p> <p>【概況見通し】</p> <p>入荷量：前年並。(△1.9%) 価格：前年並。(0.6%)</p>						
その他メロン（アールスメロン以外）	2019年	2,846	465	542	467	425	茨城 67%
	2020年	2,779	443	478	443	413	熊本 28%
	2021年	3,229	481	531	484	414	愛知 1%
	2022年	2,652	561	606	554	497	ホンジュラス 1%
	2023年	2,945	561	623	550	479	
	5カ年平均	2,890	501	559	507	449	
	2024年見通し	2,900	550	620	550	480	
実計	産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し						前年及び本年の入荷量・価格の動き
	<p>【産地状況】</p> <p>茨城、熊本を中心に入荷する。各産地は小玉傾向で推移し、入荷量は平年並を見込む。</p> <p>【概況見通し】</p> <p>入荷量：前年並。(△1.5%) 価格：前年並。(△2.0%)</p>						
すいか	2018年	6,806	281	316	286	262	熊本 61%
	2019年	5,942	279	259	289	288	千葉 20%
	2020年	6,860	297	319	314	270	茨城 13%
	2021年	6,187	330	363	337	307	群馬 4%
	2023年	6,379	332	356	343	302	
	5カ年平均	6,435	304	323	314	285	
	2024年見通し	6,000	337	360	345	305	
実計	産地状況と入荷量及び卸売価格の概況見通し						前年及び本年の入荷量・価格の動き
	<p>【産地状況】</p> <p>熊本を中心に入荷する。天候不順の影響により、各産地の生育に遅れが見られ、入荷量は前年を下回る見込み。</p> <p>【概況見通し】</p> <p>入荷量：前年をやや下回る。(△5.9%) 価格：前年並。(1.5%)</p>						

切花・鉢花の5月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 5月1日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2019年	1,730	35	
		2020年	1,123	40	
		2021年	1,383	26	
		2022年	1,044	69	
		2023年	1,343	41	
	5ヵ年平均		1,325	40	
	2024年見通し		1,300	43	
概要	愛知中心の入荷。上旬は母の日需要もあり、M、S中心に引き合いは強い見込み。中旬以降は品種の切り替わりが始まり、入荷量も増加してくる。出荷が落ち着くまでは苦しい販売もありそう。				
小 ぎ	実績	2019年	1,050	26	
		2020年	997	26	
		2021年	836	20	
		2022年	811	44	
		2023年	813	25	
	5ヵ年平均		901	28	
	2024年見通し		800	28	
概要	沖縄、愛知からの入荷。上旬は母の日の需要で動きは活発な見込み。中旬からは夏品種に切り替わってくる。愛知産は上旬は施設物なので少なめ、中旬以降は露地物の出荷も始まるが、量的には少ない。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	2019年	1,600	43	
		2020年	1,410	47	
		2021年	1,443	44	
		2022年	1,418	53	
		2023年	1,547	54	
	5ヵ年平均		1,484	48	
	2024年見通し		1,500	50	
概要	愛知、輸入を中心に入荷。国産は母の日需要に向け順調。輸入は前年並だが、複色系の変わった色目は品薄予想。				
か す み	実績	2019年	230	65	
		2020年	178	59	
		2021年	183	81	
		2022年	221	76	
		2023年	250	74	
	5ヵ年平均		212	71	
	2024年見通し		220	75	
概要	高知、和歌山、熊本から入荷。4月の前進傾向を受け、上旬は少ない見込み。母の日以降は緩やかに減少していく。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
	実績等				数量 千本	単価 円/本
ゆり	実績	2019年	300	140		
		2020年	266	114		
		2021年	250	148		
		2022年	237	168		
		2023年	260	158		
	5カ年平均		263	145		
	2024年見通し		260	155		
概要	高知、宮崎、埼玉、新潟中心の入荷。宮崎産が前年より多くなる予想であるが、他県は前年並の入荷の見込み。					
洋らん	実績	2019年	350	80		
		2020年	212	92		
		2021年	272	86		
		2022年	263	116		
		2023年	252	101		
	5カ年平均		270	94		
	2024年見通し		250	100		
概要	愛知、鹿児島、静岡、徳島などの国産及び輸入品が入荷する。コショウランは台湾産に加え、中国産の入荷も見込む。カトレアはピークを越え、微減。デンファレはアンナと白が減少し、ソニア中心となる。オンシジウムはGWで通関等のみだれから入荷不安定。シンピジウムは国産は徐々に終了し、輸入待ち。					
ばら	実績	2019年	960	72		
		2020年	616	69		
		2021年	740	78		
		2022年	855	89		
		2023年	895	81		
	5カ年平均		813	78		
	2024年見通し		850	85		
概要	愛知、岐阜、三重を中心に長野、山形の高冷地も入荷する。中旬には母の日需要、下旬にかけてはローズの日とイベントが続く。暖冬気味だったこともあり、多少前進傾向。					
枝も	実績	2019年	1,400	47		
		2020年	924	53		
		2021年	1,097	56		
		2022年	1,209	64		
		2023年	1,204	64		
	5カ年平均		1,167	57		
	2024年見通し		1,180	60		
概要	スモークツリーが始まり、ドウダンなど山取品の引き合いは例年以上に強い。上旬のイベント、端午の節句の花ショウブは例年より少なく、高単価。香ショウブは順調に出荷があり、姫リョウブなども増加する。中旬からはケイトウなどの出荷も始まる予定。気温も上がり、花持ちが悪くなる時期となる。					

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
カラ	実績	2019年	21,489	720	
		2020年	20,587	648	
		2021年	20,402	813	
		2022年	25,109	688	
		2023年	33,708	700	
	5カ年平均	24,259	711		
	2024年見通し	29,500	720		
概要	<p>入荷量は前年よりかなり少ない。5号鉢主体の出荷は例年と変わらないが、近年4号鉢以下の出荷が増え始めている。母の日需要の高まる上旬に出荷のピークを迎え、中旬以降の出荷量は大幅に減少する。発色良く花立ちの良いピンク・黄色が人気を集め、母の日の5月上旬が最も引き合いが強くなる見込み。</p> <p>前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースでのシェアで1位長野(44.0%)、2位埼玉(16.3%)、3位新潟(11.4%)となっている。</p>				
ファレノ	実績	2019年	48,013	2,448	
		2020年	28,625	2,364	
		2021年	28,365	3,412	
		2022年	38,053	2,570	
		2023年	40,114	3,157	
	5カ年平均	36,634	2,765		
	2024年見通し	40,000	3,150		
概要	<p>入荷量は前年並。人件費、資材等の生産コストが上がったことにより生産量が減っている。ミディーは母の日などの物日でも単価の伸び悩みがあり、出荷量は減る見込み。母の日定番のミディー2Fは少ない見込み。</p> <p>前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(55.5%)、2位熊本(10.5%)、3位静岡(6.4%)となっている。</p>				
バラ	実績	2019年	75,290	312	
		2020年	70,193	265	
		2021年	67,313	302	
		2022年	70,190	284	
		2023年	73,716	306	
	5カ年平均	71,340	294		
	2024年見通し	73,000	308		
概要	<p>入荷量は前年並。前年同様に母の日が遅い年回りなので、中旬まで需要が継続し中値安定が見込まれる。5号以下の小鉢中心の動きになる。3月の低温・低日照の影響で生育遅れが一部発生している。一気に気温が上がる時期なので咲き前と水管理に注意した出荷をお願いしたい。</p> <p>前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(45.7%)、2位岐阜(41.3%)、3位新潟(4.2%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ハイ ド ラ ン ジ ア	実 績	2019年	280,059	872	
		2020年	231,310	816	
		2021年	234,934	958	
		2022年	246,542	947	
		2023年	339,499	947	
	5カ年平均		266,469	910	
	2024年見通し		338,000	1,006	
概要		<p>入荷量は前年並。母の日が前年より2日早い分、前倒し出荷が増えると予想され、5月上旬までは前年より微減の見込み。今年は生産ロスが多い情報もあり、母の日以降の下旬に向けての入荷状況は減少の見込み。5号中心の取り扱いが多く、近年の新品種も褐色系の玉アジサイ・額アジサイと八重系の品種は引き合いが強い。多品種小ロット生産がより一層増えており、前年以上に小鉢の生産も増えてきている。相場は前年より厳しい予想である。</p> <p>前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(54.3%)、2位群馬(12.6%)、3位埼玉(8.8%)となっている。</p>			
ス パ テ ィ フ ィ ラ ム	実 績	2019年	18,779	291	
		2020年	17,592	311	
		2021年	16,217	344	
		2022年	13,981	428	
		2023年	13,561	325	
	5カ年平均		16,026	336	
	2024年見通し		14,000	330	
概要		<p>入荷量は前年をやや上回る。4号から6号といった鉢物より、ポットものが中心の出荷が見込まれる。単価は前年並。</p> <p>前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位三重(48.9%)、2位愛知(25.0%)、3位静岡(14.8%)となっている。</p>			
カ ー ネ ー シ ョ ン	実 績	2019年	363,009	443	
		2020年	215,562	502	
		2021年	237,366	548	
		2022年	260,109	541	
		2023年	406,474	534	
	5カ年平均		296,504	511	
	2024年見通し		405,000	531	
概要		<p>入荷量は前年並。前年同様に母の日が遅く、なおかつ、2月の天候が良かったため、抑え気味の管理で調整していたが、3月の天候不順でやや生育遅れを懸念する物も見受けられる。事前販売もここ数年より苦戦しており、生産・販売ともに苦労しそう。</p> <p>前年5月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(56.3%)、2位群馬(22.6%)、3位福島(4.1%)となっている。</p>			



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.611
2024年5月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434